

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	6	学校名	静岡県立熱海高等学校	校長名	飯嶋 雄三
------	---	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	日々の生徒との関わりを大切に、個に応じた「温かく」かつ「丁寧」な指導を充実させ、欠席、遅刻、早退の減少を図り、中途退学者数の減少につなげる。	1日あたりの全校生徒欠席人数5人・遅刻人数2人・早退人数1人未満にする。	1日あたりの全校生徒欠席人数3.4人、遅刻数1.6人、早退数0.4人。	A	全生徒数が20人程度減少したとはいえ、昨年度は1日あたり欠席5.4人、遅刻2.1人、早退1.1人だったため、今年度は全ての項目で減少している。次年度も家庭・学年部・養護教諭等との連絡を継続的にとり、減少に努める。
	学校全体で前向きに成長を求める雰囲気と環境をつくる。指導基準を統一し、全教員で指導に当たることで生徒の規範意識を高める。	チケット指導件数前年比90% 生徒指導件数前年比90%	チケット指導90→49 54.4% 生徒指導3→3 100%	B	チケット指導件数は減少傾向した。また、生徒指導件数自体が少ない。大半の生徒が、前向きに学校生活を送っている。規範意識が高まっている今、ルールの見直しを行い、より過ごしやすい学校にしたい。
イ	知的好奇心を喚起するような魅力ある授業を実践し、育成すべき「資質・能力の三つの柱」の向上を図る。 丁寧で分かりやすい授業、家庭学習の習慣化を推進し、基礎学力を定着させる。	公開授業週間における授業参観を全ての教員が年2回以上行う。	公開授業の参加率は100%を達成し、公開研究授業も年2回実施した。	A	年2回の公開研究授業では、すべての教員が公開授業を実施した。今後は公開研究授業の期間と時間割を考慮し、積極的な相互の授業参観を促進したい。
		教員研修を学期に1回以上行うことにより、授業評価「授業が分かる生徒」75%以上達成させる。	学習状況調査を12月に実施した結果、授業が分かる生徒は75.6%であった。	A	昨年度の77.1%から微減ではあるが、目標数値には届いた。今後は授業を理解できていない生徒へ、学期末の補講ではなく、それ以前の時期でのサポート体制の整備が課題である。
		生徒の家庭学習時間30分以上の生徒を60%達成する。	自発的学習状況の調査を12月に実施し、30分以上の家庭学習者数は42.3%であった。	B	一昨年度36.9%、昨年度40%に比べると改善傾向がみられるが、目標である60%以上に向け進路実現のために家庭学習の必要性を生徒に伝えるとともに、Chromebookを活用した課題提示の方法も検討する必要がある。
ウ	「進路の手引き」を有効活用し、計画的に生徒のキャリア形成のための進路指導を実施する。 地元企業や大学、専門	「キャリア通信」を月1回以上発行することにより、進路意識の向上80%以上	概ね月1回の頻度で発行することができ、進路意識向上率は76%であった。	B	キャリアG職員から多方面からの情報提供や示唆に富んだ内容でのキャリア通信を発行した。進路意識向上に向けて、より多彩な内容での発行に努めたい。

様式第3号

	学校等との連携により進路行事を充実させ、進学先、就職先の開拓につなげる。教職員間で情報共有を図り、生徒が意欲的に、より高い進路希望を掲げて地道に努力するよう、その実現に向けての実力を養成する。	進路行事参加率100% 保育・介護体験実習及び類型実習の参加率100%、インターンシップ・オープンキャンパスの参加率100%	3年進路行事、2年インターンシップまたはオープンキャンパス、1年保育・介護体験実習いずれも100%参加。	A	キャリアカフェや校外学習など各学年の進路行事には、事前準備や事後反省も含め積極的な参加がみられ、職業観や企業観の育成に寄与した。求人動向や生徒の進路動向に応じ、企業や上級学校とのさらなる連携を図りたい。
		第一志望進路先への合格・内定85%以上	就職・進学合わせて93%であった。	A	就職91%・進学100%。本年度は大手企業を受験した生徒も多く、一次応募での内定100%は叶わなかったものの、第一希望の進路先決定は6年連続で85%超を達成した。
エ	「総合的な探究の時間」では、授業を通して自身の興味・関心のある課題を見つけ、その解決に向けて、教員、外部講師、グループの仲間と協働する。	総合的な探究の時間の授業満足度80%以上を達成する。分野ごとに校内の課題を1つ以上分析し、解決案を提出する。	総合的な探究の時間の授業満足度は98.2%だった。各分野で校内の課題課題解決に向けて活動を行うことができた。	A	朝食摂取率の改善や効果的な体の動かし方など、4分野それぞれが年間で探究したいテーマを決めて見通しを持って活動することができた。2月に行われる地域探究発表会でその成果を報告する予定である。
	「キャリアマネジメント」では、卒業後の進路を見据えた課題の設定や解決方法を身につけ、発信する技術や態度を養う。	「キャリアマネジメント」の授業満足度80%以上を達成する。進路決定率90%以上を達成する。	「キャリアマネジメント」の授業満足度92.3%であり、2学期末時点での3年生の進路決定状況は93.5%だった。	A	キャリアマネジメントについては2年生の総合探究と協働で、分野ごとのテーマを探究することができた。探究的な活動と進路的な活動のバランスを見ながら、来年度の計画を立てたい。
オ	生徒が主体的に取り組む環境と雰囲気をつくり、達成感や自己肯定感、自己有用感を育む。	学校行事に対する生徒満足度80%以上	桃陵祭満足度100%	A	桃陵祭満足度100%を達成した。桃陵祭において、「打ち上げ花火」「スカイランタン」の実施やキッチンカー等の出店の通した外部との連携が大きな要因と考えられる。
	部活動や生徒会活動へ意欲を持って参加する生徒の割合を増やし、学校の活性化につなげる。	3部活以上の県大会出場 部活動満足度80%以上	陸上競技、ヨット、バドミントンの3部活が県大会以上出場。 部活動満足度98.8%。	A	県大会に出場して何をするかという目標を持ちたい。 部活動に所属することが9月から任意になったため今後新たな課題が出てくることが予想される。

様式第3号

カ	HR、学年集会、全体集会などの教育活動の様々な場面で、道徳的価値を高める指導を通じ、生徒の人格形成を図り、自他を認め多様性を尊重する態度を養う。	学校生活アンケートにおける自己肯定感満足度前年比100%以上	前年度比 92.3%	C	前年度：72.8% 今年度：67.2%(内1年：59.1%、2年：73.6%、3年：68.9%) 1年生が特に低いため、行事や授業等を通じて自己肯定感が高まるような指導を心掛ける必要がある。
		学校生活アンケートにおける友人関係満足度前年比100%以上	前年度比 99.1%	B	前年度：97.6% 今年度：96.7%(内1年：94.3%、2年：97.0%、3年：98.8%) 大きく数値の差はないが、SSTなどを通してコミュニケーション力を高める必要がある
キ	読書環境を整備し、読書習慣を定着させ、読書量の増大及び質の改善を目指す。	図書室の図書貸出数を年間200冊以上にする。	図書室の貸出数は2学期末時点で220冊だった。	A	日本赤十字社の支援もあり、今年度は80冊以上の書籍を入荷することができた。また、図書室前の廊下や壁を学期ごとに装飾し、図書室に関心を持ってもらうような活動を行った結果、一昨年度80冊→昨年度140冊→今年220冊と大幅に貸出数を伸ばすことができた。
		最近読んだ本がある生徒100%を達成する。(図書アンケートの実施)	最近読んだ本がある生徒は80%だった。	B	多くの生徒が朝読書を利用して本を読んでいる一方で、何人かの生徒はいつも学級文庫にある同じ本を眺めているだけになってしまっている。来年度は定期的に、教員お薦めの短編をプリントで配布して全校で同じ作品を読む日があっても良い。
ク	生徒が心身ともに安心して快適に過ごせるよう、生徒・保護者の健康管理に対する意識を向上させ、安心・安全な教育環境を整備する。	朝食摂取率80%以上	第1回調査 75.6% 第2回調査 81.0% 第3回調査 70.5% 平均75.7%。	B	目標値には達しなかったが、全3回の調査で約7割の生徒が日常的に朝食を摂取していることが分かった。朝食のみならず食事の大切さと卒業後を見据えた食生活についての食育を継続していきたい。
		特別支援教育の教員研修を実施する。特別支援計画の作成を実施する。個別面談体制の充実を図る。	特別支援可視化シートを活用し、生徒の生活・学習環境の向上を意識した教諭100%達成	100%	A
ケ	生徒の危険への予測・対応力を育成するとともに、奉仕活動等を通じて地域貢献意	ウルトラ大掃除や通学路清掃など奉仕活動を年2回以	ウルトラ大掃除 1回 部活動有志清掃 2回	A	ウルトラ大掃除で近隣地域の清掃活動を行うことができた。また、部活動有志で地域の海岸や通学路清掃を行うことにより、

様式第3号

	欲を高める。	上実施する。			生徒の積極的な意識向上がうかがえる。
		地域防災訓練参加率を50%以上達成する。	地域防災訓練参加率25.6%	B	地域によっては訓練対象外の生徒もいたが、参加率は昨年よりは上昇した。
コ	<p>広報活動を充実させ、生徒・保護者・地域に対し、学校の特徴的な取り組みや成果についての理解を広め、生徒募集の増加につなげる。地域との連携を深め、地域に根ざした教育を実践することにより、地域から信頼される学校づくりにつなげる。</p>	<p>中学校訪問(2か月に1回程度)、生徒による広報動画・ポスター等の作成(桃陵祭まで)、HP更新(週1回)、インスタグラム更新(週平均1回以上)を行う。</p>	<p>中学校訪問年間72回(昨年度76回)。HP更新月平均2回(昨年度1.7回)。</p>	A	<p>管理職による中学校訪問やチラシの作成、早い段階からのHPによる告知もあって、体験入学やオープンスクール参加者数は昨年度を上回った。インスタグラムはフォロワー数が1,200人を突破し、在校生だけでなく保護者や中学生もホームページよりもSNSで情報収集している様子が伺えた。しかし、HPやインスタグラムの更新が一部の教員に偏っている現状もあり、活用できているとは言い難い。2年生は外部講師より効果的な広報について学び、学校紹介CM動画を作成した。</p>
		<p>オープンスクール参加者数50人以上、一日体験入学参加者数80人以上を達成する。</p>	<p>オープンスクールを2回実施し、計53人の参加があった。一日体験入学は80人の参加であった。</p>	A	<p>昨年度に続きオープンスクールを2回実施した。一日体験入学では探究活動に特化した内容を実施した。魅力的な授業を用意できたと思うが部活動見学含んだ時間設定や広報の方法を改めて検討していきたい。</p>
		<p>PTA総会の参加率を50%以上にする。</p>	<p>総会参加率39% 三役会 70.8% 役員会 50.0%</p>	B	<p>総会の参加率は、目標を達成することはできなかったが、昨年と比べて上がっている。PTA役員会の参加率も昨年より良くなっている。</p>
サ	<p>外郭団体等と連携し、生徒がグローバルな視点を身につける場を提供し、積極的な交流により異年齢・異文化・様々な業種への理解を深め、地域に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>各コースにおいて、年間1回以上外部講師を招請した授業及び校外学習を行う。授業アンケートにおける満足度80%以上を達成する。</p>	<p>国語でのSPACによる演習や公民での消費者教育など、外部講師を招請した授業を行うことができた。また、総合探究だけでなく観光ビジネスコースや福祉コースにおいても、生徒が直接フィールドワーク</p>	A	<p>生徒の授業満足度は96.3%であった。「行きたい学校づくり推進事業」と「はごろも教育研究助成賞」の予算を上手く活用して、ユニークな探究活動を実施できた。今年度は探究だけでなく通常の授業においても、生徒にとっても楽しく学べる活動が多かった。ただ、外郭団体等の連携において、特定の教員に業務が集中することがあったため、今後は、3年間で育てたい能力を元に、長期的な視野で活動計画を立てることで、業務を分散し、</p>

様式第3号

			に赴いたりするなど、情報収集能力、課題解決能力の育成を図った。		小規模校でも自走できる探究活動の仕組みを構築したい。
シ	生徒や職員が安心して過ごせる教育環境を整える。	施設設備の巡回点検月1回 施設設備に係る生徒事故0件	月1回の巡回点検を確実に実施した。 施設設備に係る生徒事故は0件であった。	B	雨漏りなど建物の老朽化に伴う修繕については、継続して予算を確保するため県へ要求していく。 引き続き、生徒事故0件を目指し、点検整備を実施していく。
ス	学校組織や業務分担の見直し、行事等の教育活動の精選、時間外勤務時間の削減を通して、生徒に対する効果的な教育活動を行う環境を整備する。	時間外業務時間の対前年比減少 完全閉庁時間(20時)の徹底 業務改善を意識した教職員の割合100%(意識調査) タイムマネジメント、業務の効率化・デジタル化、部活動ガイドラインに則った実施等に関する情報提供を年間10回以上実施する。 年次有給休暇16日取得者率50%以上	時間外業務時間前年度平均454時間、今年度は313時間と141時間減少した。 20時完全閉庁日数前年度185日中103日、今年度102日で変化がなかった。 業務改善を意識した教職員は100%で昨年同様であった。 情報提供については、2回とほぼできなかった。 年次有給休暇所得率は21%であった。	B	成果は時間外勤務を前年比で141時間削減できた点である。課題は20時閉庁や有給取得率が目標を下回り、情報提供がほとんどできなかったことにより教職員の意識改革が停滞した点である。今後は効率化の情報発信を強化し、組織全体の意識を底上げするとともに、更なる業務改善と休暇取得を促進する実効性のある体制構築を行う。